

県立田島高等学校

教科名等：家庭「家庭基礎」
単元(題材)名：「育つことから育てることへ」
～子育てにかかわる～
学年：第1学年

実施状況

男女共同参画社会についての理解を深めさせるために、夫婦の役割分担意識や共働き世帯数の推移、育児休業取得率の推移などの資料を準備し、班ごとに話し合いを持ち、意見を発表させた。

また、男性が育児休業を取得した事例をあげることにより、男女が協力しながら子育てを行うことの大切さを理解させたいと考えた。



生徒の感想

- ・ 子育てには、役割分担意識という根強い意識があった。しかし、女性の社会進出により、意識が変わっていった。また、育児休業の男性取得率がとても低いことが分かった。
- ・ 育児・介護休業法については知っていたが、資料を見て男性の育児休業取得率の低さには驚いた。働くことはもちろん大切だが、休業を取ることも大切だと思った。
- ・ 育児休業や介護休業を男性も取得できることが初めて分かりました。しかし、取得している男性が女性に比べとても少ないということに驚きましたが、班で話し合って、男性が取得しない理由に納得したところもあったが、やはり男性も育児休業を取った方がいいと思った。
- ・ 育児休業は男女共に取得できるのは知っていたが、資料のように、男性が育児休業を取りにくい状況にあることは知らなかった。
- ・ 子育ての時には、女性だけでなく男女も育児休業を取って子育てをすれば、家族が一緒にいられる時間が増えると思いました。でも、絶対ではなく家族と相談をするだけでも、意識が変わってくるのではないかと思いました。

参観者の感想

- ・ 授業形態も班での話し合いを設定し工夫があった。生徒が課題によく取り組んでいる姿が印象的でした。生徒とのやり取り、指名の仕方、板書が今後さらに工夫されればと思う。
- ・ ジェンダーの問題を取り上げ、「気付かせる」授業で、生徒の感想を読ませていただき目標は達成できたのではないかでしょうか。教室グループ（班）の分け方も参考になった。

指導者の感想

授業を通じ、男性と女性の意見を出し合うことにより、考え方の違いや思いを分かり合うことに繋がったと思う。

生徒の半数以上が、男性も育児休業が取れることを知らず、「子どもは妻が育てる」といった役割分担意識が見られたが、事例をあげ班ごとに話し合いをさせることにより、意識の変化が見られたことはよかったです。

しかし、過去のデータを掲載した資料に頼ってしまった部分が多く、もっと身近な事例から考えさせれば、さらに興味・関心を喚起することができたのではないかと思う。